

防災の伝道者たち

INTERVIEW WITH KEYPERSON

当たり前前の積み重ねと備えが余裕を生み、

大切な人を守る



わが子と妻です



教官時代、体育の指導中。

日頃から災害を意識し、防災の大切さを社会に広め、いざというとき率先して行動する。防災の伝道者たち。そんな彼らが持ち歩くのはどんな防災ギアなのか？ それぞれの考えに基づき携帯品を参考にして、自身の防災に役立てたい。

写真／青木健悟（P.P）



携帯のPoint

オリジナルサバイバルキットには、20mlの飲用水、ポリエチレン手袋、マスク、消毒綿、バンドエイド、パンダナ、ロキソニン、ブドウ糖タブレット、携帯食料、緊急簡易トイレ、防災虎の巻、ライトと電池、ゴミ袋、簡易人工呼吸器具、警笛を常備。家族の写真はラミネート加工で水や土砂による劣化を防ぐ。スマホにはラジオのアプリも。

元消防学校教官 鎌田修広さん

18年間在籍した横浜市消防局で、消防訓練センター・体育訓練担当教官として、人材育成と危機管理教育に携わる。現在は「災害に強い人やまちづくり」をテーマに人材育成を行う。

鎌田修広さんにとって防災とは「爪を切る」と同じ。だということ。「私は消防職員の頃から数日に一度爪を切るのですが、これは誰かに助けようと思えば触れた時、手に不快な思いをさせないため、また、クルマのガソリンも、メーターが半分になったら補給します。防災とは、こうした「当たり前前のこと」の積み重ねなのです。以前聞いた話ですが、スーパーコンビ

ユーターに「世界で最後に生き残るのは誰か」と尋ねたら「思いやりがある人」という答えがはじき出されたそうです。普段は道徳心に沿って生活していても、災害時はそれができないこともあり。また、普段から備えておけば、いざという時に生き延びることができ、心に余裕が生まれ、周囲への思いやりをもつこともできるのだと思います。

しかし、備えが必要だとわかっていても、なかなか実行に移せない人も多いのではないだろうか。「人間は自分の身を守ろうと考えただけではなかなか動くことができません。けれど、大切な人のためなら行動しやすいものですから、大切な人のために備えるのだと目的を明確にするといえます」

鎌田さんも大切な人を守るため、自宅マンションで自主防災組織を



防災士・危機管理アドバイザー 和田隆昌さん

感染症で生死をさまよった経験から防災士の資格を取得。専門誌の編集長を経て、災害や危機管理問題に取り組む。長年、アウトドアに親しみ、そこから得たサバイバルの知識も豊富だ。

持ち出し品は、季節やタイミング、人や家庭の環境によって違ってくる

「被災したとき、一番大事なのは何かだと思いますか？」自らの体験を活かし、災害や危機管理問題に取り組み和野隆昌さんの取材は、そんな質問から始まった。「それは情報です。何をすることも、まず情報が必要です。たとえば被災の第1段階では、安全に避難所にたどり着く必要があります。そのためには、どこに行けばいいのか、どう行けばいいのかといった情報が必要で、正確な情報を得ないで避難所に向かうのは、大変危険なことです。現在はスマートフォンという便利なツールがあり

ます。それをどう活用できるかが、重要なポイントになります」

和田さんはスマートフォン、バッテリー切れを防ぐため常に約3日間のモバイルバッテリーとカーチャージャーを持ち歩いている。「日常的に防災グッズを持ち歩く必要はありません。必要なのは普段の生活や仕事で使え、非常時にも役に立つもの。普段使えないものを持ち歩くのは無駄です」

和田さんのバックには、ベットのホルン用保冷ポケットがある。こういうちょっとした配慮が「普段使えて持ち歩ける」ということだ。

「非常用持ち出し袋を買って、安心している方も多いですが、それだけでは充分ではありません。じつは被災時に必要なものは、人によって、家庭によって違います。たとえば私の場合、コンパクトレンズを使っていますから、使い捨てタイプのレンズは絶対必要です。持病のある方なら、服用している薬とお薬手帳が必要でしょう。また、季節やタイミングによって、必要なものは変わっていく。被災直後、まず確保したいのは「水と食糧」です。しかし、避難所にたどり着いたら、今度は衛生面が心配ですからウエットティッシュやタオルが必要になります。また、暑い夏と寒い冬では、必要なものが違ってくるのは当然でしょう」

和田さんは、春と秋、年2回の持ち出し品チェックを推奨する。

常に備えよ 防災ギア

救助に必要なアイテムも揃つ。「これを持つことで、何かあったら率先して行動しよう」と自分を奮い立たせるという面もあります。また、普段からメンタルとフィジカルを鍛えておくことも重要だと思えます。災害から強い人材は、折れない心で困難に立ち向かい、強い回復力をもつ。今、多くの企業から求められるのも、そうした人材です。私も「災害人材育成」を通して日本をタフにするために貢献していきたいですね」

文 吉田 漢

携帯のPoint

和田さんが持ち歩くアイテムは、普段から使えるモノばかり。スマートフォンに不可欠なUSBカーチャージャーとモバイルバッテリー。衛生面で欠かせないウエットティッシュ。エアマスクと耳栓は安眠の確保に役立つ必需品。ペンにはLEDライトとホイッスルが付属している。バックの中には水のペットボトルも欠かせない。